

まず掃除から はじめよう

生産環境部 楠川翔悟

年末には家族総出で大掃除をされた方も多いと思いますが、さて、畜舎の大掃除は皆さん済まされたでしょうか……

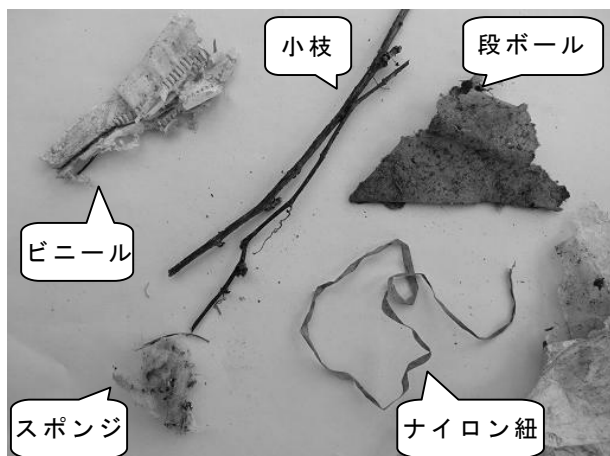
☆☆☆☆

たまに、「足の踏み場もない」状況となっている畜舎に出くわすことがあります。言葉どおり、通路にものが散乱し床が見えないような状況です。散らばっている物は、カラになった飼料袋や使い終わった器具、糞や敷料、餌のカスまで様々。

通路の状況と生産品は無関係！！なんていうことは、まずありません。「**畜舎の整理整頓、掃除ができていない＝家畜の管理が出来ていない**」ということです。

たとえば、プロの料理人が調理場を整頓し清潔に保つように、プロの畜産農家は畜舎を大切に扱わなくてはなりません。

上述のように、通路にものが散乱しているという状況は、それ自体が不衛生です。散乱物が生み出す物陰は害虫の住処となり、紙袋やビニールなどはネズミの寝床資材を提供しているようなものです。また、湿気やほこりが蓄積するため、カビや病原菌の温床ともなります。加えて、疾病対策のため消毒を行うに際しても、物が邪魔で消毒を行えないという負の連鎖を生み出してしまいます。（**衛生環境の悪化**）



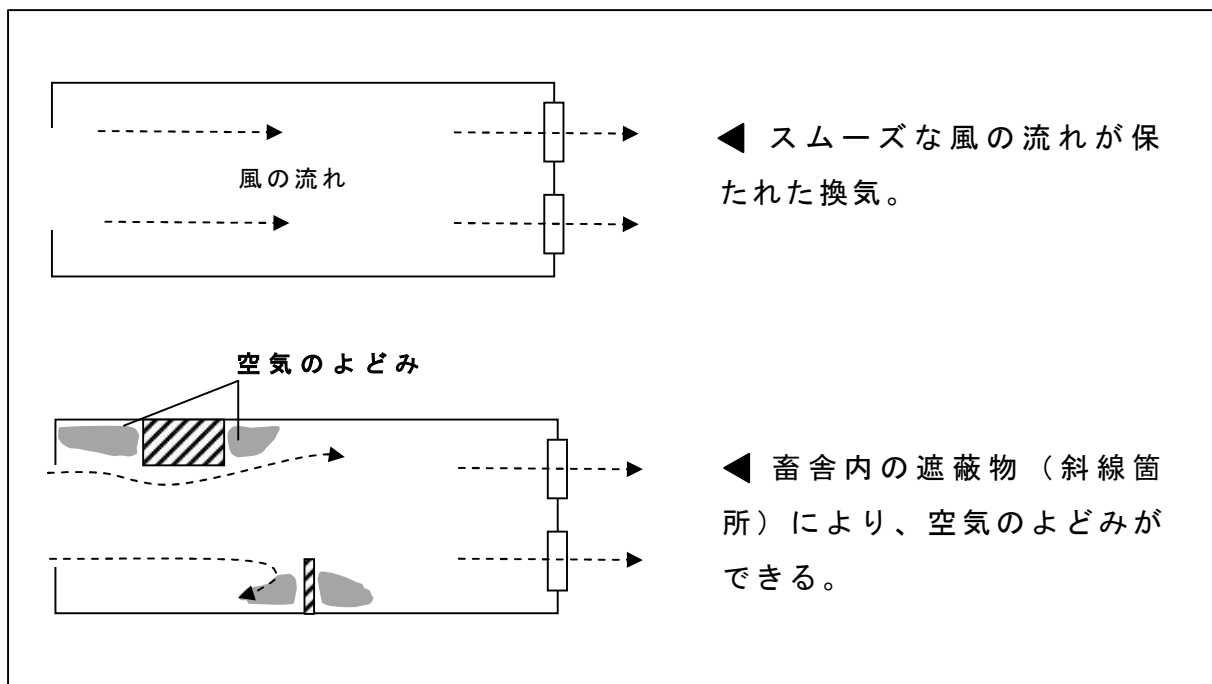
◀ 撤去したネズミの巣から出てきた巣材。木の枝以外に、ビニールや段ボール、スポンジなど畜舎内外から寄せ集めたと思われるものが巣材として用いられていた。

ロープやスコップ、畜産器具などが散逸している場合、いざ作業を始めようとしても、まず道具探しから始めなくてはなりません。(労働の非効率化)

器具・道具は一か所にまとめ、取り出しやすいよう配置する。管理上重要なものは戸棚や鉄庫を用いて整頓する。一目でわかり、できる限り作業導線を簡潔に済ませられるよう工夫が必要です。

足元だけでなく畜舎内に大きなもの（作り付けの棚や使わない資材など）を置いてある場合、その周囲だけ風の流れが変わり、うまく換気が行われなくなります。端的に言えば、空気のだまりを作ってしまうのです。(不完全な換気)

また、何年も「開かずの窓」になっている窓はありませんか。入気口の一部分が塞がることによって、部分的に換気が不十分となったり、入気速度が異常に早くなったりします。換気を行っているのにカビが生える、いつも同じところに埃がたまるなどは換気不全のサインです。



飼料の管理には、いっそう注意を払う必要があります。

飼料庫に長期間放置している餌はありませんか。水分含量が低いから大丈夫、サイレージ化しているから大丈夫といった不確かな自信に頼らず、定期的に状態を確認し、異常（見た目や臭いなど）が感じられたものは使わず廃棄しましょう。(飼料の変敗)

特に、栄養価の高い飼料はネズミやカラスの餌となったり、害虫発生の原因となったりしやすいです。(畜舎内外の不衛生)

飼料置場はもちろんのこと、家畜の食べ残しや食べこぼしも適切に処理し、舎内外での衛生環境の維持に努めましょう。また、飼料や動物用医薬品は台帳を作成し、購入・使用時に忘れず記帳しましょう。

※ 台帳の保管期限：牛 8 年、採卵鶏 5 年、豚・ブロイラー 2 年

(「飼料の適正使用について(畜産農家の皆さまへ)」農林水産省平成 27 年 4 月 参照)

畜舎の外にまわって、外観はどうでしょう。

外壁や窓が壊れたままになっていませんか。野鳥や野生動物除けのためにしてあるネットなどはきちんと管理されているでしょうか。

また、畜舎周りの除草は定期的に行っていますか(特に夏～秋!)。繁茂する雑草は、一見して管理不行き届きの現れであり、また畜舎への侵入を企む野生動物の隠れ蓑となります。



畜産は汚れるものだから…と諦めてはいけません。畜舎内への野生動物の侵入は畜種を問わず、忌避すべきです。(防疫対策の不備)

☆☆☆☆

こういったことを書くと、「いちいち細かいなあ……」と思われるかもしれませんが、細かいところに気を配れるか否かが、競合相手に差をつける第一歩でもあります。

家畜の細やかなサインを見落とさず、逐一手間をかけられる人は、必ず畜舎でも「これは良くないな」「ここは早く直そう」と、改善点を自主的に見つけられる人です。(客観的観察)

☆☆☆☆

年末の大掃除には間に合いませんでしたが、畜舎の大掃除がまだの方は一度チャレンジされてみることをお勧めします。

そして、整頓された畜舎を維持するため、毎日こつこつと掃除を怠らずに。